

楽しく
読んじゃう

小社発行の「看護学事典」の執筆者の皆様に、
事典で解説していただいた用語にまつわるエッセイをご執筆いただきます。

新看護学事典

Vol.08

組織文化

組織という集団の中にある文化のこと。組織メンバーの行動や意思決定の前提であり、同じ組織が存続することを可能にしている慣性、心理的な境界である。(看護学事典第2版より)

Inada Kumiko

四国大学看護学部看護学科教授

稲田 久美子

看護ケアを形づくるもの

『「組織文化」って何だろう？『組織風土』と同じこと？』と、皆さん思っていないでしょうか？

組織文化とは、そこにいる人たちが長い年月をかけてつくり、無意識のうちに大切に、無意識のうちに共有化しているもの、組織の中にあると決して気づかない、でも外から入って来た人にとってはとても奇異で不思議に思えるものです。

私が初めて「組織文化」を実感したのは、14年前、東京の病院から徳島の病院に移った時でした。

最初の驚きは、病棟の歓送迎会の席上、初めてお会いする医師から、「あなたの大学の同級生に〇〇というのがいるでしょう？ その旦那は

僕の高校の同級生なんです」と、言われた時です。「なぜ、私の出身校や同級生を知っているの??」と、驚きのあまり目が点になっていると、「そんなこと、みんなが知っていますよ」と、さらりとされたのでした。それはもう、東京の病院ではあり得ないことでした。そこでは、詳しく同僚のルーツに関心を持つ人などいなかったからです。

「組織文化」というのは、その組織の中で「当たり前」とされていることです。当たり前の関心、当たり前の価値、当たり前の会話、当たり前の行動、当たり前の習慣……。

病院は皆、外目には同じように見えても、それぞれに異なる文化を

持っています。

その起源は病院ができた時に遡り、組織の中に深く深く根を張って、そこで働く人たちの考えを、行動を規制しています。

私は「看護組織における組織文化」をテーマに、10年余り研究を続けています。なぜなら、「組織文化」こそが、看護職集団が提供している看護ケアをつくっていると思うからです。

看護は集団の中で提供されています。ですから、集団メンバーの中で潜在化し共有化されている「組織文化」は、看護ケアを考える上で、とても大切なものだと思います。

日本で唯一、看護職だけの執筆による事典。
待望の第2版ができました。

[総編集] 見藤隆子・小玉香津子・菱沼典子

看護学事典 第2版 | 定価 (本体6,600円+税)

A5判/横組1200頁/2色刷 ISBN 978-4-8180-1601-9



項目語

約4500語

約500語追加

索引語

約1万4000語

約2000語追加

本書は単なる辞典(ことばの解説)ではなく、
看護学領域における事典(ことからの解説)として編集しました。

お問い合わせ・販売はコールセンターまで
Tel.0436-23-3271/Fax.0436-23-3272
<http://www.jnapc.co.jp/> 日本看護協会出版会